



きょうの紙面

2 ニコ☆プチ

3 3分チャレンジ

4・5 いいね 小学校

6 英語

7 かほくワークシート

8 投稿特集



及川アドバイザーの

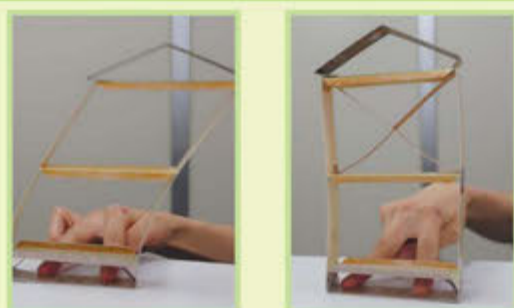
ぼうさい 学ぼう防災

28

夏休み真っただ中、みなさんはいかがお過ごしですか。長い休みだからできることもいろいろありますよね。この機会に、防災に関する実験や体験をしてみることをおすすめします。

例えば、ペーパークラフトを使って地震に弱い建物の特徴を理解できる実験があります。模型を揺らし、どんな時に大きく揺れるか、どうしたらあまり揺れなくなるの

(1) 建物の揺れの実験



紙で作った建物の模型。補強していないと(写真左)大きく揺れるが、筋交いを入れて補強すると(写真右)揺れに強くなる
 出典:名古屋大学減災連携研究センター福和研究室「ふるるくんのじしょうかい」

(2) 液状化現象の実験



①砂と水、プラスチック画びょうを入れたペットボトルと紙コップを用意する②ペットボトルを逆さまにして紙コップに入れる③ペットボトルをたたくと画びょうが砂の上に浮かび上がってくる
 出典:防災科学技術研究所「Dr.ナダレンジャー エッキー」

(3) 非常食レシピ



①スナック菓子「じゃがりこ」(カルビー)にさいて食べるチーズ、塩少々、熱湯150ccを加える②ふたを閉めて数分待って混ぜると、ポテトチーズサラダが完成③コッペパンにはさんでサラミを載せればごちそうに!
 考案:仙台市若林地区婦人防火クラブ

液状化実験や非常食作り

か試すことができます。建物構造の違いで地震の揺れから受ける影響を確認しましょう。

昨年の北海道の地震でも発生した液状化は、地盤が地震の揺れで一時的に液体のようになり、建物が傾いたり倒れたりする現象です。この状況を身近にある物で

実験することができま

500ミリのペットボトルに砂と水とプラスチック画びょうを入れて、紙コップの中に逆さまに立てます。指でペットボトルをたたいて揺れを起こすと、砂の中から画びょうが現れるという実験です。地震の時にマンホ

ールなどが浮き上がる状況を再現します。

災害時には、電気・ガス・水道が止まったまま何日も生活しなくてはならないことがあります。暗く不安な気持ちも、限られた食材や道具でおいしい物を作って食べれば元気になると思います。家にある非常食でどんな物ができるか考え、実際に作ってみると、いざという時に役立ちます。

キャンプやバーベキューは、災害時に必要なことをたくさん学べます。おとな任せにせず、みんなで準備することが家族の防災力を高めます。

夏休みに、家族や友だちと一緒に楽しく防災を学ぶ機会をつくっては、いかがでしょうか。

(仙台市防災・減災アドバイザー・及川由佳里)

|| 最終週に掲載、次回は8月25日 ||

夏休み親子で災害に備え

今週の注目ニュース

◇30日(火) 世界少年野球大会(～8月7日、福島市)

日本をはじめ、14の国・地域から少年少女約130人が参加するよ。日本の王貞治さんとアメリカのハンク・アーロンさんが、1990年に始めたんだ。

◇8月1日(木) NIE(教育に新聞を)全国大会(～2日、宇都宮市)

新聞を活用する学習について、発表や公開授業をするんだ。国語や社会だけでなく、農業や商業の勉強にもなるんだよ。